

社会福祉法人はりま福祉会 せいりょう園
2024年度事業計画書

2024年度は、はりま福祉会が日の出医療福祉グループの賛助会員となり3年目となります。日の出医療福祉グループの理念を軸に経営を継続し、地域福祉に貢献を進めています。令和5年度3月31日にせいりょう園小規模多機能型居宅介護事業所を開設いたしました。働きたい職場づくりを最優先に事業運営に取り組んでまいります。また、経年劣化した建物の修繕、外国人雇用などを計画しております。今年度もはりま福祉会の事業運営にご理解をお願いいたします。

基本理念

日の出医療福祉グループ理念である「お客様のよろこび」「社員のよろこび」「地域のよろこび」を台として運営します。

団塊の世代が75歳となる今、介護サービスの現場では人材不足となっています。安心して働ける環境づくりを目指し既存の考えにとらわれず改革をしていきたいと考えています。

社会福祉事業を取り巻く環境は、収益確保・人材確保その他難しい局面に立たされています。地域から選ばれる施設づくりに向けて、要介護や認知症のお年寄りを大切にし、利用者様の満足のいくサービスづくりを目指して事業展開します。

(1) 2024年度業務指針

①サービスの質の確保

基本的なケア・看取り介護について常に考え、多様化する、ご利用者様、ご家族様のニーズに応じることができるよう、日々新たに、取り組みます。ご利用者様に、自由な暮らしと安心できる環境の中で過ごしていただく為に、身体拘束・行動制限の廃止、虐待防止、感染対策、接遇向上に取り組むと共に、質の確保、ご利用者様の満足度向上を目指し、常にチャレンジします。

②収益向上・改善

在宅新規事業開設、在宅既存事業強化を図り、地域の皆様に、積み重ねてきた地域での信頼、特性を生かし、地域での生活を支えることができるよう努めます。各事業の収益構造をさらに見直し、事業継続できる体制を引き続き構築し、地域から選ばれる施設づくりに向け取り組みます。

③人財確保・育成

時代に即した、活気ある組織体制の構築。運営の中心を担うことのできる人財育成に取り組みます。また、日の出医療福祉グループとの人事交流を実施し、つながりを強固にした育成体制づくりもすすめていきます。人員確保から人財確保に努め、人財があつまる魅力ある職場づくりをすすめます。

④地域交流事業の再開

地域サポート施設として、地域における多様なサポートの道を拓き、世代を超えた、地域の様々な情報の発信・交換の場を喫茶スペースに再構築し、地域サポート施設の窓口として、新たな地域交流事業を企画、運営します。

1 食事と健康管理

『食べる』事は命の源であり、食事の雰囲気は『生きている』事を実感する瞬間です。感性・感覚に刺激を与える生活環境を創り、口腔ケアに努めて『自然の摂理に沿って逝く道』に寄添い、ご家族様やご友人とともに『死後にも続く関係性』を築きます。

2 認知症の人の介護

認知症は「進行性」の病気で、初期の不安・混乱期を過ぎて安定期に入ると、長年の生活で培った経験則と感性・感覚で、吾身の老いを受容れ自在に暮らす『社会生活の適者』に変身します。地域社会の一員として暮らす認知症の人は、その社会の持つ許容量を測るバロメーターであり、多様で柔軟で持続可能な『共生社会』への道標です。

3 ケアプランとリスクマネジメント

要介護や認知症の高齢者が『社会参加』と『自己実現』を図るには、主役として自らの暮らしを決める『主体性』が重要です。ご利用者様の意向と意思決定を尊重し、適切なアセスメントに基づいたケアプランの作成、事故予防に努めます。

4 サービスの向上に向けて

ご利用者様に、自由な暮らしと良好な生活環境の中で人生を全うして頂く為に、感染症対策、身体拘束・行動制限の廃止、職員による虐待の防止や言葉の使い方、等々について常に職務を点検し、「サ

ービス改善委員会」の意見も伺い変更・改善に努めます。

外部研修会・内部研修会・各種会議を通じて、職員相互に切磋琢磨し、専門職としての技術を磨き、職業人としての資質を高めます。

5 事故への対応

老いて機能が低下する暮らしの中で、不測の事故は起り得る事を想定し、事故防止と共に事故後の『迅速かつ適切な対処と丁寧な説明』を旨として対応します。『サービス改善委員会』を毎月開催し、適切な対応と業務の改善に努めます。

6 防災避難対策

地震や台風等大規模災害を想定し、『福祉避難所』としての役割も考慮し、地域にお住まいの要援護者も視野に入れ、『地域と連携』した避難訓練を企画します。様々な災害を想定し訓練を実施し、非常食を3日分以上に備蓄し、防災意識の向上に努めます。

7 感染症対策

引き続き感染症予防・まん延の防止に努め、『感染症対策委員会』を中心に、各事業に応じた計画を整備し、定期的に『研修と訓練』を行います。

(2) 2024年度個別事業計画

1 特別養護老人ホームせいりょう園(ユニット型30人)の運営

「トイレ付き個室」で自分流の居住空間を創り、最期まで主役として暮らして欲しいと願います。身体拘束や行動制限は行わず、『地域社会やご家族様との接点』を大切にします。

2 地域密着型特別養護老人ホームせいりょう園(20人)の運営

個室風に設えた2人室で、最大限に自分なりの居住空間を創って最期まで主役として暮らして欲しいと願います。身体拘束や行動制限は行わず、『地域社会やご家族様との接点』を大切にします。

3 指定短期入所生活介護事業(ショートステイ20人)の運営

看取りを覚悟して利用する方々も現れ、計画的に繰り返し利用する場合でも「最期への覚悟」を促す専門的技量が求められます。ご利用者様毎に異なる外部事業所のスタッフと密に連携し、住み慣れた地域

での在宅生活を支えます。

4 軽費老人ホーム・ケアハウスせいらょう園（30室）の運営

生活保護も含めて所得階層に応じて毎月の負担額が公費により補填されるワンルームマンションです。個室内にバス・トイレ・キッチンを備え、最期まで自立した生活者として暮らして頂けます。

生活相談の充実を図り、地域社会の一員としての生活を支えます。

5 指定通所介護事業（デイサービスセンター20人）の運営

自然の変化や他者の視線を感じ取って、自らの居場所を探る力を養い、老いを受容して『人生の仕上げ』に備えて頂きたいと願い、老いの途を支える『五感のもつ感性・感覚』に働き掛ける試みを工夫し、住み慣れた地域での在宅生活を支えます。

6 老人居宅介護等事業の運営

① 指定訪問介護事業（ホームヘルパーステーション）

② 指定地域密着型定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業

24時間を通して適宜、生活支援・身体介護・看取り介護等を提供して最期まで暮らしを支えます。介護保険対象外の日常生活支援サービスにも努めて、社会人としての仕上げの暮らしに、適度な距離で最期まで寄添います。

7 指定認知症対応型共同生活介護事業（グループホーム）の運営

認知症の人は、認知機能が低下しながらも、長年の生活で培った感性・感覚と経験則で他者との距離を測り、居場所を探り、適度な関係性を築いて、自在に生きて穏やかに人生を終える、『社会生活の適者』です。彼らから多くを学ぶ介護現場の観察力と発信力を高め、運営推進会議を通して地域の人々に伝えます。

2つのグループホームには、ご夫婦で入居できる居室が有る事を周知し、定員3人の共用型デイサービスのご利用者様を募り、認知症の人の居場所を地域社会に広げます。

8 サ高住「リバティかこがわ」「自愛の家さくら」の運営

要介護になっても、認知症になっても、介護保険のサービスを利用して最期まで自分流に暮らし、次の世代に社会を引継ぐ役割と責任を果たす為に最適の住宅です。バス・トイレ・キッチンを備え、適度な密度のコミュニティで他者と係わり、適度な距離とタイミン

グでサービスを利用して、『主役』として人生を締め括って頂きたいと願います。

9 グループハウス「岸本邸」の運営

空家活用のシェアハウス「岸本邸」は、生活支援員やホームヘルパーの支援とご近所のご理解に支えられて、団地の一員として大過なく過ごしておられます。「地域共生社会」への明るい兆しが見えた様にも感じます。

10 鍼灸マッサージ治療センターの運営

マッサージや指圧・鍼灸は、生物学的な治療効果と同時に、人の手が触れる感覚が他者への信頼感や安心感を生み、心地良さや安息感を与える優れた技術です。介護の原点にも通じる高度な技術を入居するお年寄りに提供しながら、地域の多くの皆様にも利用して戴きたいと願います。職員の福利厚生も担います。

11 せいりょう園喫茶ルーム『ラヴィック』の運営

令和6年3月31日付で休業します。

12 せいりょう園老人介護支援センターの運営

地域サポート施設の窓口として、地域包括ケアシステムの拠点の役割をめざし、地域交流事業を企画、運営します。『地域の人の憩の場』として、リバティかこがわ1階をオープンスペースとしての活用し、世代を超えた、地域の様々な情報の発信・交換の場を創ります。

13 小規模多機能型居宅介護事業の運営

介護が必要になられた方が、有する能力に応じ、可能な限り居宅において自立した生活を営むことができるよう、通い、訪問、宿泊を組み合わせてサービス提供することにより、住なれた地域での在宅生活を継続できるよう支援いたします。